第４章　対象地域の調査

1.　ワークショップ対象地の選定

１）ワークショップ対象地の選定の観点

第１回調査検討委員会で示した３つの観点①集落の取り組み意欲、②集落元気づくりの実現性、③外部支援等の可能性・継続性に加え、第１回調査検討委員会での意見を考慮し①自治体等との協力関係が見込める地域（観点①）であること、②集落元気づくりへの取組が可能であると思われるある程度の高齢化率・世帯数であること（観点②）③中山間地域であること（観点③）、及び④集落元気づくりに対する集落としての取組意欲があること（観点④）の条件により選定を行った。

結果、宮崎県児湯郡西米良村にある八重集落を対象集落として選定した。

調査対象地の選定の観点

観点①自治体等との協力関係による選定

○平成19年度現地調査対象地（17自治体）から選定

福岡県（星野村、小郡市）、**佐賀県**（佐賀市、武雄市）、**長崎県**（小値賀町、対馬市）、
熊本県（山都町、小国町、南小国町）、**大分県**（竹田市、日田市）、
宮崎県（西米良村、高千穂町）、**鹿児島県**（南さつま市、薩摩川内市、南大隅町、瀬戸内町）

観点②集落の高齢化率・世帯数による選定

○高齢化率　概ね50%～、世帯数　概ね20～50世帯の集落から選定（次ページに詳述）

《対象集落》 佐賀市(1)、小値賀町(2)、西米良村(1)、薩摩川内市(1)、南さつま市(1)、 瀬戸内町(2)

観点③地理的条件（中山間地域，離島）による選定

○今回調査では中山間地域を対象とすることとし、中山間地域となる集落を選定

《中山間地域》 佐賀市(1)、西米良村(1)、南さつま市(1)
《離　　島》 薩摩川内市(1)、小値賀町(2)、瀬戸内町(2)

観点④対象となる集落の取組意欲等による選定

○アンケートより取り組み意欲、元気づくりの実現性、行政やＮＰＯなどの外部支援の可能性を把握
○他事業の実施状況を確認し、類似事業の重複を回避（次ページに詳述）

《選定集落》 宮崎県　西米良村　（八重集落）

２）自治体との協力関係、高齢化率・世帯数、地理的条件による集落の選定

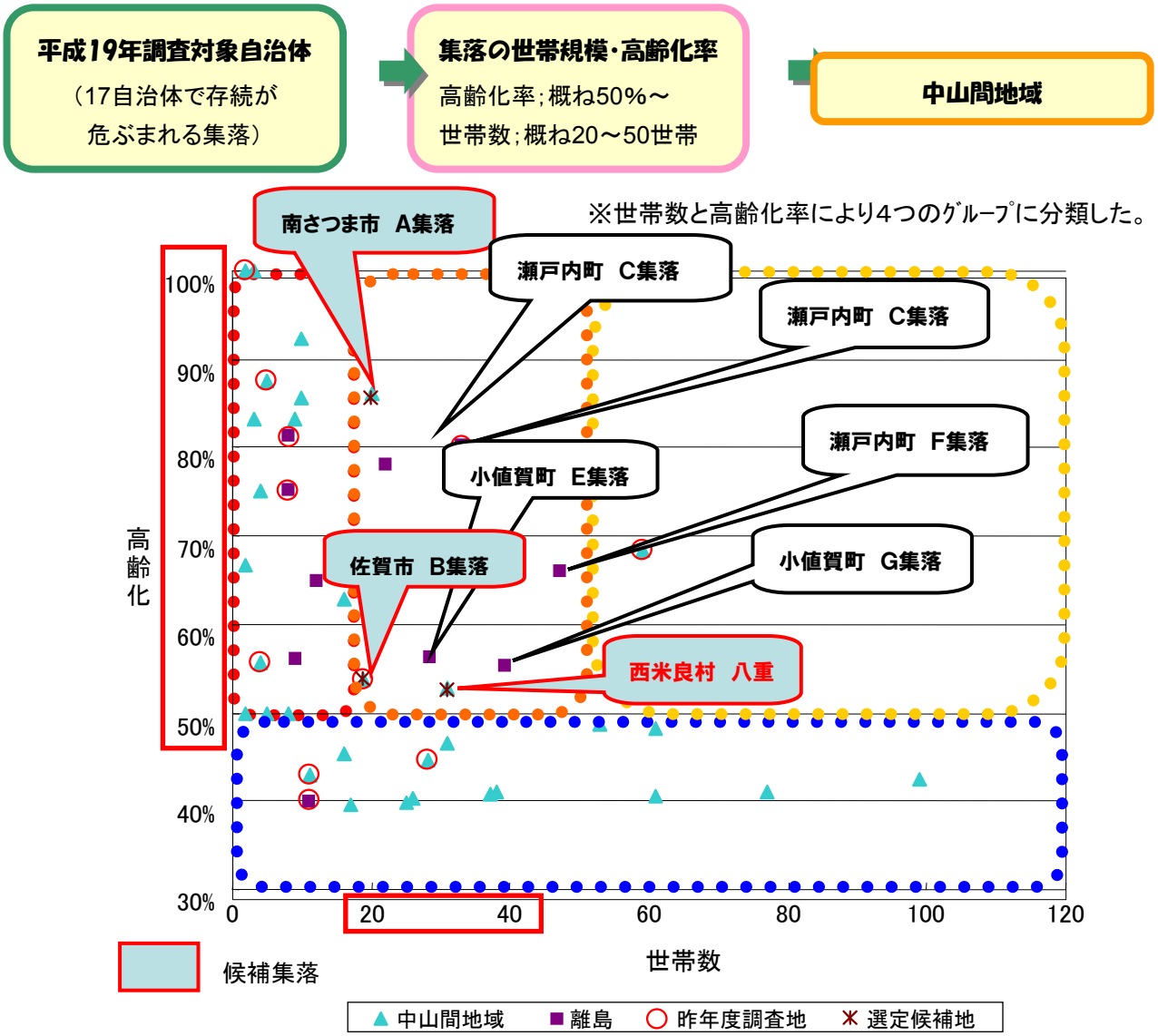
対象集落の選定にあたって、観点②で示した集落元気づくりに向けた集落の高齢化率・世帯数による選定条件の考え方を以下に示す。

①高齢化率

昨年度調査から、高齢化率が高くなるほど、集落内の共同活動が困難となる傾向がみられたため、高齢化率が概ね 50%以上の集落を対象とした。

②世帯規模

集落がまとまりを持って地域活動を行う理想的な規模は、50 世帯～80 世帯とする見解（農村計画研究連絡会、中山間地域研究の展開,1998 年）があるが、より厳しい条件となる概ね 50 世帯以下の小規模集落を対象とした。なお、世帯規模がさらに小さく（概ね 20 世帯未満）なると、集落元気づくりも困難になると想定し、今回は概ね 20 世帯以上 50 世帯以下の集落を対象とした。



３）取組意欲、類似事業の重複回避の観点による対象集落の選定

対象集落の選定にあたって、観点④で示した対象となる集落の取組意欲等による考え方を以下に示す。

① 取組意欲

集落アンケートより、集落代表者に集落元気づくりに向けた取組意欲とアンケートにおいて提案された集落元気づくりへ提案されているアイデアの内容を考慮した。

② その他事業

その他事業への取り組みの状況と、集落に対する行政やＮＰＯなどの外部支援の状況を考慮した。（その他事業については事業の実施に伴う集落元気づくりへの影響を考え、類似の事業実施中の集落について今回の対象地から除外した）

４）集落元気づくりワークショップ開催集落選定結果

⇒以上４つの観点を総合的に勘案し、ワークショップ対象地となる集落を宮崎県児湯郡西米良村の八重集落に選定した。

対象集落	高齢化率	世帯数	取組意欲（集落アンケート）	その他事業
鹿児島県 南さつま市 （A 集落）	86.2%	20 世帯	・ 集落外支援者と共に取り組みたい ・ 地域資源（山菜、景観、登窯、空き家） ・ 滝を利用した交流、現在 NPO と連携して登窯建設中。春完成予定	平成 20 年度 NPO による「新たな公」事業推進中（金峰町大坂地区） 元気集落「高齢化率 60%」からの挑戦。
佐賀県 佐賀市 （B 集落）	59.8%	19 世帯	・ 取り組みを既に実施している ・ 地域資源（山菜） ・ 今年度、地元大学によるワークショップ・シンポジウムの開催。1 月にふるさと会を行う予定。	佐賀市が平成 20 年度当該集落でワークショップを実施中。
宮崎県 西米良村 （八重集落）	52.7%	32 世帯	・ 現状では、耕地も少なく、生活の手段が限られている。林業の衰退で後継者がなく、10 年後には数軒しか残らない集落となる。集落活性化の取り組みも高齢者ばかりで出来ない状況。 ・ 取り組みに向けて集落内の話し合いをしたい。	平成 16 年の台風の災害以降、災害懸念から集落づくりが停滞。 （災害懸念から）

2. 対象集落の現地概要

（１）八重（はえ）集落の概要

①集落の位置

宮崎県児湯郡西米良村大字板谷にあり、村の西部、熊本県境に位置する集落であり、西米良村中心部である村所まで車で 10 分の距離に位置している。

②集落の特徴

平成元年に有志一同による物販所を開設し、ファミリーフィッシング等のイベントをやっていたが、平成 16 年の災害以降行われていない。当時イベント開催を企画・運営していた集落の中心メンバーは現在 70 歳代であり、高齢化が進んでいる。集落には 50 歳代～60 歳代が少なく、新たに集落づくりを行う世代への引き継ぎが課題となっている。

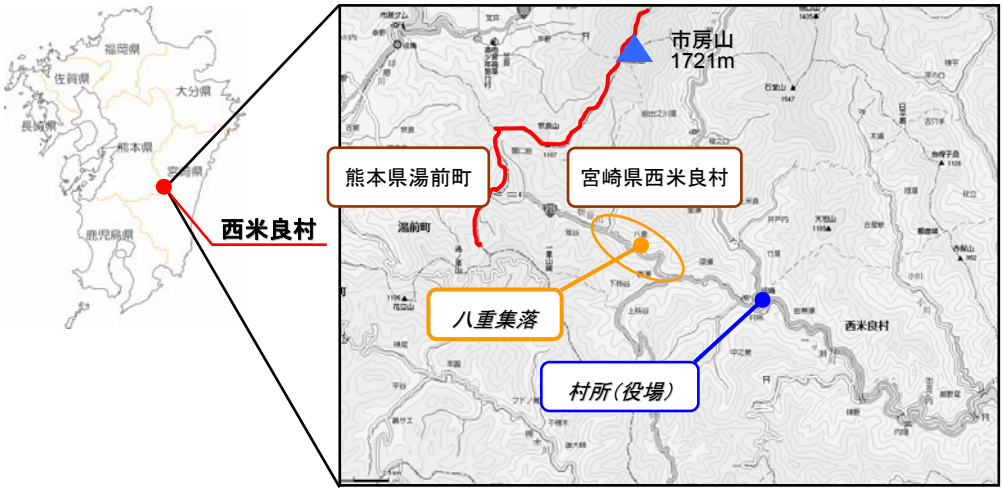


図　対象集落の位置

国道219号より八重の集落中心部を見下ろす。集落は谷間を流れる板谷川に沿って形成されている。

集落中心部にある集会所。平成16年の台風時に水に浸かる。以来住民は大雨が来ると自主的に集落外へ避難する人が多い。

市房山への登山口のある「吐合（はきあい）地区)」。近年単身世帯が増えている。登山道の整備はされていない。

写真　対象集落の特徴

（２）集落の資源

１月に実施した予備調査において、八重集落には、登山道、清流、棚田、空き家、直売所、加工所、地域固有の食材などの資源が見られた。

＜田＞

数年前より耕作されていない棚田。但し、管理はされている。

＜山＞

吐合地区から市房山山頂まで2時間程度で登山可能であるが、道の整備はされていない。

＜川＞

集落に沿って流れる板谷川は清流。

以前はファミリーフィッシングを開催していたが、災害後行われていない。

＜桜＞

法面に植えられたソメイヨシノ。地元有志により植林された。

＜食＞

米良大根、シイタケ、柚胡椒、漬け物、油味噌等地元食材が豊富である。

（３）集落のコミュニティ・生活環境

自治体アンケートにより把握された、八重集落のコミュニティ施設、生活サービスの状況は以下の表にまとめた。集落の交流・コミュニティ施設は、集会所、学校、その他施設の整備状況、集落の生活サービスは、交通インフラ、ブロードバンド、携帯電話、福祉サービス、公共交通、商業機能の状況のアンケート結果である。

集会所が健全な状態で整備されているほか、インターネットも無線 LAN により集落内に既に整備されている。

一方で携帯電話の通話は困難であるほか、小学校は村の中心部である村所までバスで通学する必要がある。

但し村営の路線バスが運行されており、生活利便施設までは公共交通によりアクセスが可能である。

区分	質問項目	実態
集落の類型	対象集落の類型	基幹集落
集落の交流・コミュニティ施設	集会場施設の有無（空施設含）	有(健全)
	学校施設の有無	無し
	集落にて寄り合い等に利用可能なその他公共施設の有無（空施設含）	有 (健全)
対象集落の生活サービス	交通インフラの整備状況	狭隘な道路（離合可能）
	ブロードバンドの整備状況	集落内整備済
	携帯電話の通話圏域	通話は困難
	介護・福祉訪問サービスの担い手	有 (域外も含め集落外からのサービス)
	福祉機能(施設)の状況	無し
	公共交通の運行状況	有（5 便／日未満）
	商業機能（施設）の状況	無し(車等で買い出し)
	医療機能（施設）の状況	無し（救急車か車で搬送）
	小学校の状況	バス等交通手段が必要

・ 今後の集落への居住意向については、「今後とも住み続けたい」（17 世帯）が最も多く。次いで「状況によっては離れざるをえない」（6 世帯）となっている。

（４）居住を継続する上での不安（図３）

・ 居住を継続する上での不安の上位３項目として、「土砂崩れ、崖崩れ等の発生の危険性が強い場所がある」（18 世帯）、鳥獣被害等が増加している」（13 世帯）と 回答した世帯が多い。

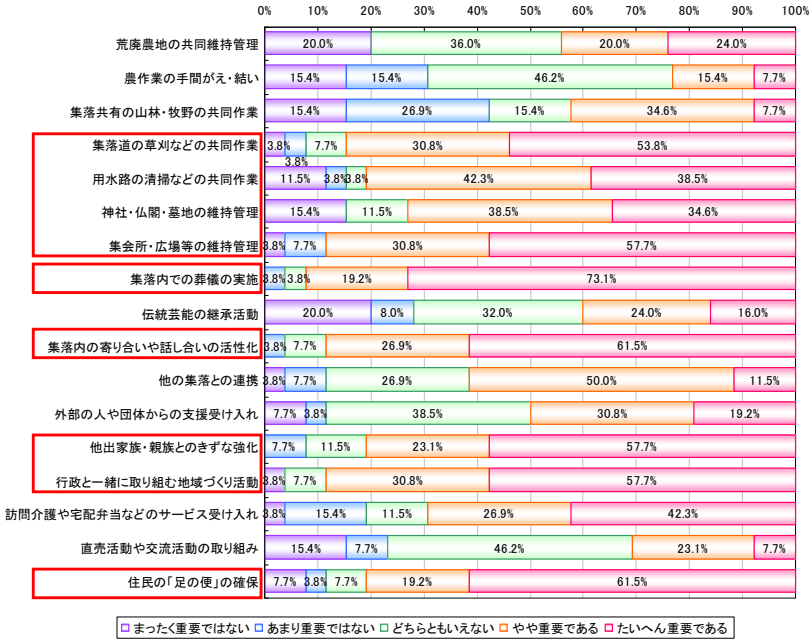


図１　集落の共同活動の重要性について

（５）今後居住を継続する上で必要なもの

・ 最も重要な項目として、「集落内の相互扶助」（11 世帯）、「国や自治体の支援・協力」（8 世帯）が最も多くなっている。

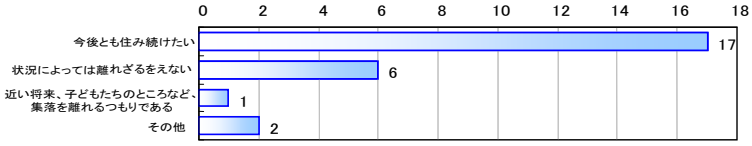


図２　集落への居住継続

（６）集落内あるいは近隣の地域資源

・ 集落内あるいは近隣の地域資源としては、「御大師堂、豆漬け谷の湧水、板谷川、下相谷の山桜、光男桜、竹之元谷」が挙げられる。

（７）集落内の活用可能な資源

・ 集落内あるいは近隣の活用可能な地域資源は、「遊休地や耕作放棄地や空き家」が挙げられる。

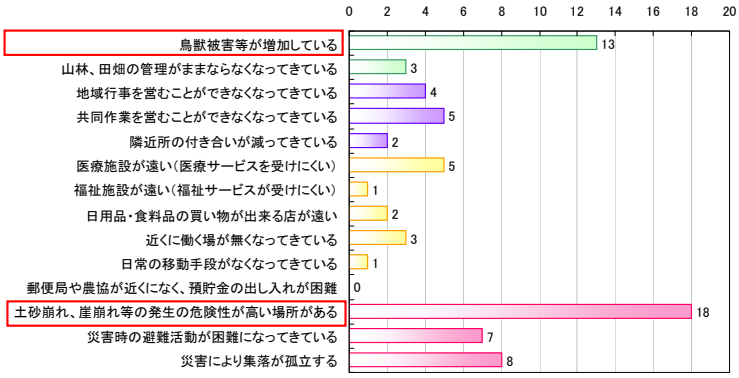


図３　居住を継続する上での不安

（８）集落内あるいは近隣の食材を用いた自慢の料理

・ 集落内あるいは近隣の食材を用いた自慢の料理としては、「山菜（サトガラ、ウド、ワラビ、イタドリ、筍、ワサビ、タラの芽）、魚」が挙げられた。

（９）子孫に残したい伝統芸能、特技・手業

・ 残したい伝統芸能、特技、手業としては、「伐採技術、炭焼き、米良寒蘭の培養、木工、釣り、狩猟」が挙げられた。

3. ワークショップの概要

（１）ワークショップの運営方針

①ワークショップの開催回数

ワークショップの開催は３部構成とし、「集落点検」の実施による集落実態の把握に基づき、「集落元気づくり」の検討を行った。

②ワークショップの参加者

ワークショップの参加者は集落の住民と、必要に応じて外部からの支援者（他出者、学識者、地元事業者、NPO、行政等）も含めて実施を検討した。

③ワークショップ開催の留意点

- ワークショップ開催にあたっては毎回目的を参加者に伝えてから開始した。
- 円滑な話し合いのため、適時参加者を５～８名の小グループに分けた。
- 女性が参加しやすいよう保育士による託児所を設けた。また、世帯代表だけでなく、個人の参加を募る。（1 世帯複数名参加可能とした）
- ワークショップはその都度内容が完結することに留意し、途中からの参加がしやすいよう冒頭に前回のワークショップの復習を実施した。また、グループ作業により、得られたそれぞれのグループ作業成果を参加者同士が共有しあえるよう毎回の作業結果発表（フィードバック）していただいた。
- ワークショップの最後に参加者へのアンケート調査（ふりかえりシート）を実施し、ワークショップへの要望・感想、参加者の作業時間中に言えなかった意見の補足、次回のワークショップ開催に向けた情報を収集するよう配慮した。

《ワークショップの回数と開催テーマ》

第1部　現状の問題を見てみよう
世帯毎（他出者、後継者等）の家族構成や集落の資源を把握することで集落の現状を共有

↓

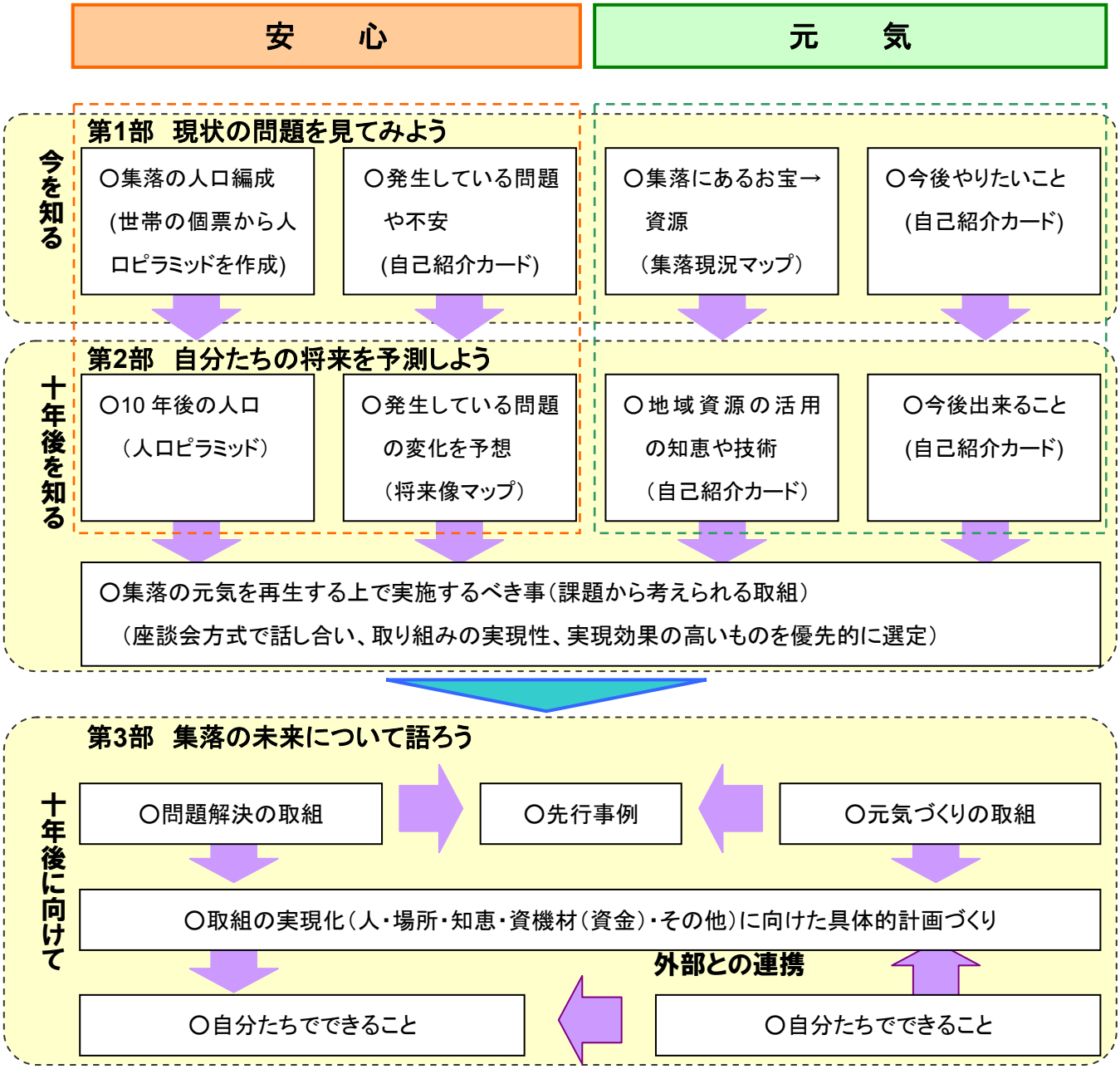
第2部　自分たちの将来を予測しよう
第1部の集落の10年後の集落の実態を予測し、集落の問題・課題の抽出と取組メニュー

↓

第3部　集落の未来について語ろう
第2部の集落の問題・課題を解決するための集落元気づくりの具体化

（２）ワークショップの目的とシナリオ

ワークショップは集落の「安心」と「元気」についてその現状・将来予測から今後の取組（外部支援含）について話し合うことを目的として開催する。そこで、ワークショップでの具体的取組の話し合いにおいて、集落内人材・資源が不足する場合は期待される外部人材・資源について話し合いを進める。



4. 第１回ワークショップの概要

西米良村八重集落の第１回「集落元気づくりワークショップ」では、世代別に４班に分かれ、集落人口ピラミッドや集落現況マップを作成しながら、集落の現状について話し合った。真剣な議論の中にも、笑いが包む和気あいあいとした雰囲気で、熱気にあふれたワークショップとなり、集落の１０年後の未来を考え、元気を出していく取り組みについて具体化していく。

以下に開催概要を示す。

（１）開催日時・場所

日時：平成 21 年 2 月 10 日（火）18:30～21:15

場所：宮崎県西米良村（八重集落）　八重活性化センター

（２）開催テーマ及び参加者

開催テーマ「現状の問題を見てみよう」

参加者数：29 名（4 グループに分かれて議論）

（３）目的

① 集落の課題を導き出すため、集落の現状（人口、資源や集落維持における懸念事項）をまとめ、集落の現状を参加者全員で共有する。

② 世帯毎の現状（世帯構成、他出者、後継者の有無）を把握し、集落の将来人口について考える。

（４）プログラム（概ね３時間程度）

第１回ワークショップの開催プログラムを以下に示す。

《第1回ワークショップの開催プログラム》

①開会挨拶

②ワークショップの目的(趣旨)の説明

③自己紹介(不安・やりたいこと等)

④集落の人口構成を知る

集落カード個票（集落全世帯の情報を家ごとにまとめたカルテ）から世代ごとの人口ピラミッドを作成する。

あらかじめ用意した人口構成シート(人口ピラミッド)へ世帯カードの家族構成をもとにシールを貼っていき、人口ピラミッドを完成させる。

青シール：男性、赤シール：女性

水色シール：他出男性、ピンク：他出女性

※他出者については「関東」、「近畿」、「九州内」、「宮崎県内」、「その他」が表中でわかるよう記述する。

⑤集落現況マップの作成（不安）

高齢者世帯、Iターン世帯、空き家、耕作放棄地、鳥獣被害箇所、一人暮らし世帯、親密別居、疎遠別居等の情報を記入する。

※暮らしにおける心配や不安なことを赤系のシールと付箋紙でまとめる。

1. 空き家（後継者無し世帯による今後の空き家発生）

2. 耕作放棄地（資源でもある）、造林未済地、鳥獣被害箇所等

3. 災害懸念箇所、災害時の避難路と高齢者世帯

※集落で残したい資源を青系のシールと付箋紙でまとめる。

⑥集落のお宝地図の作成（資源）

神楽、共有林、郷土料理、食材、神社・ほこら等の集落の資源を記入

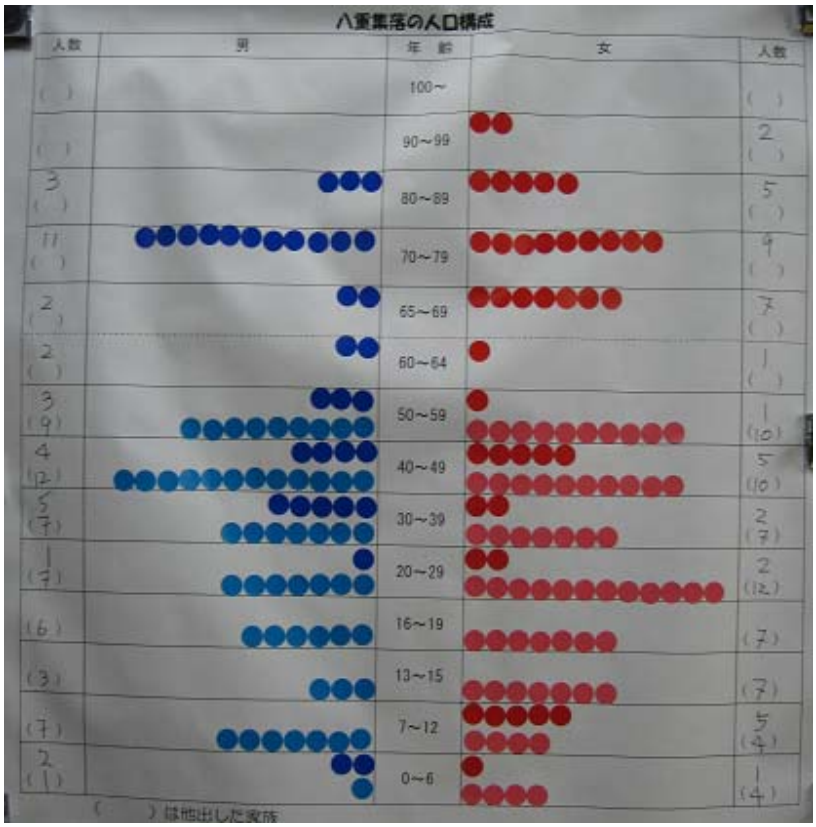
⑦成果の発表

⑧閉会挨拶（次回日程連絡等）

※集落の良いところ、悪いところ(改善すべき所)をアンケート形式で把握

（５）人口ピラミッドの作成

集落の人口構成、集落外に居住されている集落血縁者（他出者）の状況を把握するために、人口ピラミッドを作成した。



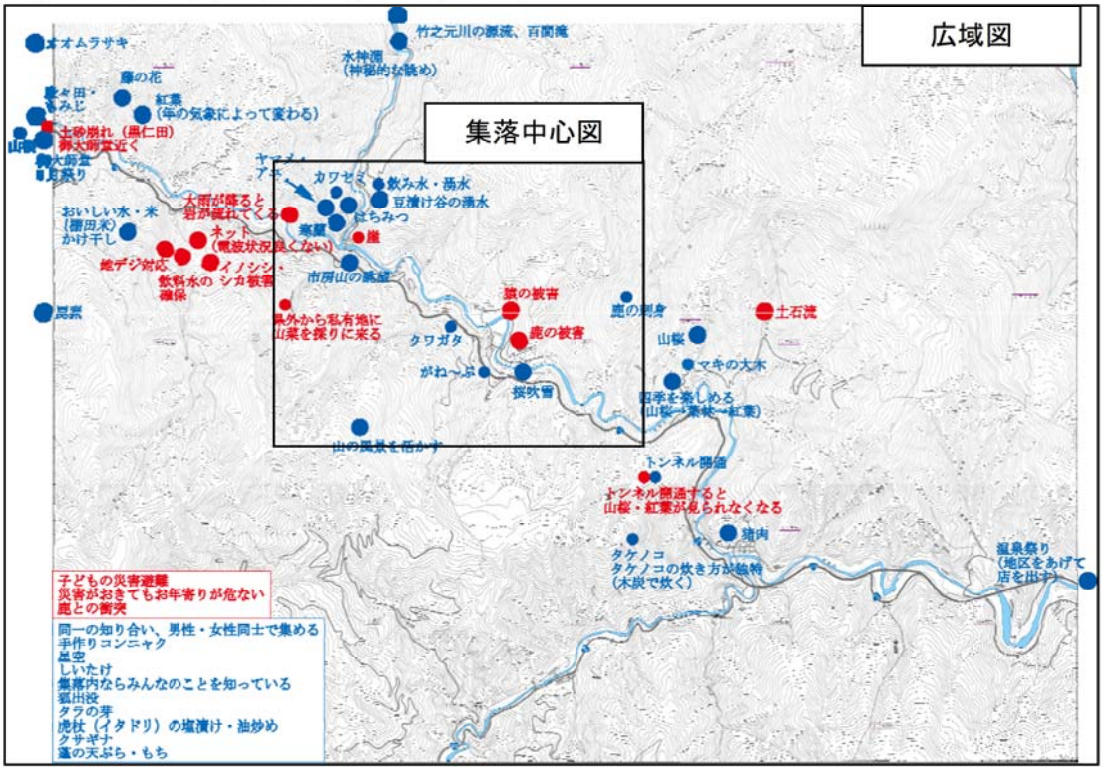
各年代区分において
上段：居住者数　　下段：他出者数

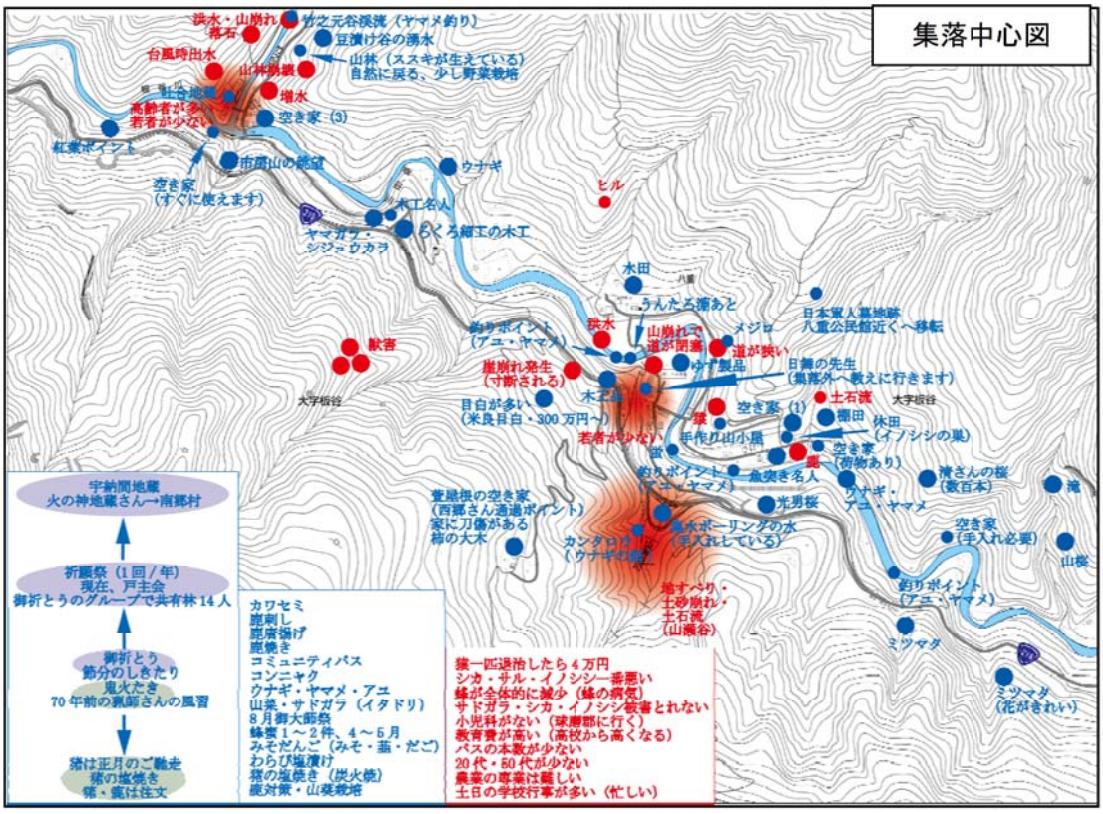
	男性	女性	合計	構成比率（%）
65 歳以上	16（ 0）	23（ 0）	39《39》	53《21》
15～64 歳	15（41）	11（46）	26《113》	36《61》
15 歳未満	2（11）	6（15）	8《34》	11《18》
計	33（52）	40（61）	73《186》	

- 八重集落の人口は 73 名で、他出者を含めると 186 名となる。
- 集落の現在の高齢化率は 53%で、他出者を含めると 21%となる。
- 60 歳代は、居住者と他出者共に少ないが、70 歳代は多く居住している。
- 40～50 歳代の居住者が、昔、進学や就職で他出し、その結果として、その子世代にあたる 10 歳代～20 歳代が集落に少ない状況となっている。

（6）集落現況マップの作成

ワークショップにて各グループで議論された成果を以下にまとめた。図面は集落周辺も含広域図と集落中心部を拡大した集落中心図の 2 枚で作業を行った。赤字が不安、青字が資源である。地図上に表すことが出来ない「不安（例えば教育や医療不安）」「資源（伝統文化や郷土の味など）」は欄外に記入を行った。





（７）第１回ワークショップの総括

① 事前準備（参加の場の創出）

八重集落のワークショップ開催にあたり、集落在住の役場職員の協力も得て、住民に参加を呼びかけた。集落を熟知している役場職員の協力が、ワークショップ成功要因の一つと考えられる。

ワークショップへは九州地方整備局、宮崎県、西米良村や学生など、外部からの視点でも意見を提供したことで、話し合いの手助けとなった。

② 区長への挨拶と予備調査の実施

八重集落でワークショップ前に、外部者であるワークショップ主催者が地元区長に挨拶に行き面識を得ると同時に、区長を通じて集落の概要を把握できたことが、ワークショップを円滑に進める上で有効であった。

また、ワークショップを集落内で開催したため、参加者は３回とも多数を確保できた。

③ 全世帯アンケート調査の実施

統計には表れない世帯毎の世代構成（他出者含む）や生活における不安等の把握のために事前に全世帯アンケート調査行った。その結果、統計では得られない世帯毎の人員や年齢構成の実数、他出者の数などが得られた。

また、事前の全世帯アンケートの実施により、災害への不安と鳥獣被害への不安が突出した結果を得られるなど、ワークショップにおいての話題提供が可能となったこともワークショップ成功の要因であった。

しかし、一方では事前の全世帯アンケート調査では、集落元気づくりに「取り組む気はない」との意見が全体の約３割程度見られた。

④ グループ分けによる効果

発言のしやすさに留意し、集落在住の役場職員の方の助言を得て、年代別にグループを分けた。昔を回顧するグループ、同じ年代での悩みなど、同年代でのグループ分けにより、話し合いのしやすい雰囲気が生まれた。

⑤ 現在と将来の人口構成による気づき

高齢者が多いことはもちろんのこと、50 代が抜けてしまっていることなど、参加者が集落の現実を視覚的に認識できた。

⑥ 集落の他出者の実態の把握

事前アンケート調査により把握された集落の他出の集計結果をワークショップで紹介したことで、自分たちの集落の 10 年後の将来を考えたときに、人口構成において、集中的に

他出した世代が明らかになった。

⑦ 住民が多く感じた八重集落の不安及び資源（作業成果）

八重集落の不安としてあげられた主なキーワードは以下の通りである。

- 鹿、イノシシ、猿等による鳥獣被害
- 山瀬谷を始めとする山崩れ、土石流、落石、増水
- 小児科の遠さ、高校からの学費の高さ

八重集落の資源としてあげられた主なキーワードは以下の通りである。

- 山菜、蜂蜜、寒蘭、ヤマメ、鮎、鰻
- 光男さくら、ミツマタ、山桜、紅葉、藤の花、オオムラサキ、メジロ
- 御大師堂、吐合地蔵、西郷隆盛伝説
- 豆漬け谷の湧水、星空、棚田、滝
- 鹿刺し、味噌団子

⑧ 代表的な感想

- 地元に有るもの、歴史等、少しながら発見もありました。まだまだ、元気な地区になりそうだと思いました。
- グループで色々な話を出す中で、今の八重地区の現状が改めて見え、新たな発見・再確認する事が多かったです。年代別に分かれて話し合う場はなかなか取れないので、話し合ってみて、皆さん色々な事を思っていることが分かり、楽しかったです。年代が上の人に、郷土料理を教えてもらいたいなと思いました。
- 水害にあってから、地区活動が億劫になっていたので、今日の時間は水害に遭う前の地区活動の楽しかった頃を思い出しました。
- 人口ピラミッドにより集落の事が分かった。地図を使った事で、場所も分かりやすかった。

⑨ 住民が今後集落元気づくりとして取り組んでみたいこと

- 八重地区についての勉強会
  …歴史的な事を始め、誰の山かなど、地域管理の情報の共有のためにも。
- 山桜の花見、紅葉狩り
  …国道沿いにベンチや公園を設置して、桜や紅葉等を車窓から眺めるのではなく、足を止めてもっと近くで見られるように出来れば良いかなと思います。ファミリーフィッシングを桜の時期に復活させて、活性化させたい。
- 空き田畑を利用した生産
  …老人の収入源として。獣害のない作物の生産をしてみたい。

⑩ 宮崎大学の吉武哲信先生の講評

「ワークショップは、参加者が楽しく行えたかどうかが第一である。今回、ほとんどの方にワークショップに参加して良かった、楽しかった、と感じてもらい、開催した意義があった。

話し合いや発表を通して、八重集落の魅力をあらためて知る良い機会になったのではないか。特に、若い世代の方は、自分たちの住む地域でありながら初めて知ることも多かったようで、これを機会に年配の方からいろいろと習われたらどうか。」

⑪ 明らかになった課題

村に高校が無いため、子供たちが高校生になると村外に出てしまい、教育費負担が重く、暮らしに精一杯といった切実な声が聞かれる等、子供の教育や医療、公共交通の不足への“対応や支援”を今後検討していくことが必要である。

5. 第2回ワークショップの概要

小雨が降る中、八重活性化センターには、約 30 名が集まり、今回も熱心な議論が行われた。

第 1 回ワークショップに続き、集落元気づくりの取り組みとして考えられるプロジェクト企画を、テーマ別に 4 グループに分かれて話し合い、集落として取り組むべき「集落元気づくり」の骨格を作り上げた。

集落の現況を見つめ直し、将来を予測する中で、新たに見える集落の問題と課題。その共通認識の中から、世代間の意識差を解消し、お互いのやりたいことの話し合いに参加者の表情は真剣そのものであった。

（１）開催日時・場所

日時：平成 21 年 2 月 27 日(金)　18:30～21:15

場所：宮崎県西米良村（八重集落）　八重活性化センター

（２）開催テーマ及び参加人数

開催テーマ「自分たちの１０年後を考えてみよう」

参加者数：25 名（4 グループに分かれて議論し、グループ構成は話し合いたいテーマ別に分かれていただいた）

（３）目的

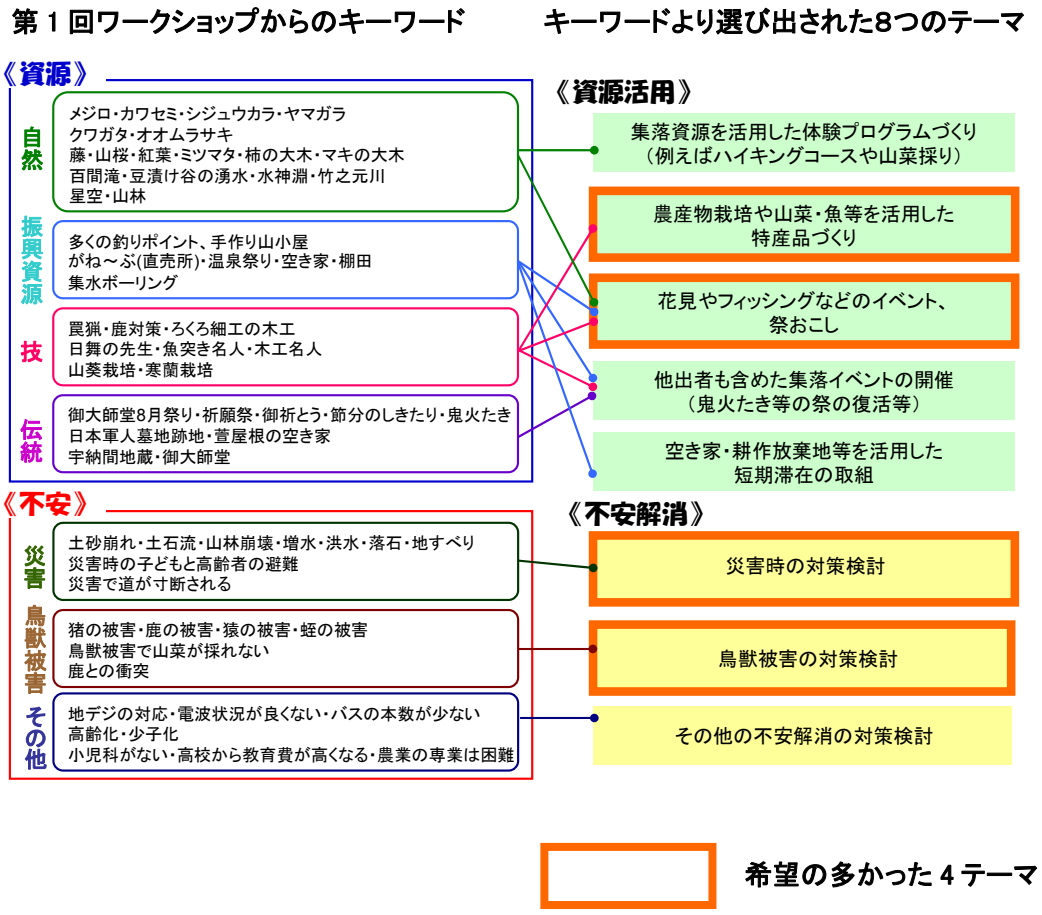
10 年後の集落の姿を考え、集落の問題・課題の抽出と取組の話し合いを行う。

その際、第 1 回ワークショップにおいて抽出された不安と資源のキーワードから、「不安解消」、「資源活用」につながるテーマ別に議論を実施し、集落元気づくりに向けた取組の方向性を決めることを目的とする。

（４）実施方法

第１回ワークショップで出された「資源」の活用や、「不安」の解消に向けた８つのテーマを選出し(下図)、参加者の希望より４テーマ（グループ）に分かれて話し合いを進めた。テーマ毎の話し合いの進め方や話し合いの際に参考となる先行事例やグループ内の進行シナリオについては次ページ以降にまとめた。

第１回ワークショップからのキーワードと選出された4つのテーマ



（５）ワークショップ開催前に想定したシナリオ（テーマ別）

以下にワークショップ開催前に事務局として用意した議論の進め方（シナリオ）を示す。

グループ①「集落資源を活かした都市交流」

《テーマ設定の背景》以前は板谷川の清流を活かした、ファミリーフィッシング大会を年に１回行っていた。参加者の中にはその頃は楽しかったと回顧する人もおり、都市交流は集落住民の方々の活力にもつながっていたと思われる。

《現況及び 10 年後の将来像》八重集落の 10 年後の人口構成はどうなるのだろう？Ｉターン者の定住や都市部の人々との交流が起これば、何が変わるだろうか？

《先行事例の紹介》NPO きびっとの森では、集落にある既存資源（竹、古墳、基山の景観(借景)を活用したウォーキングコースをつくり、ウォーキングイベントやその他都市交流イベントを展開している。また里山づくりは時給制にし、その活動資金は交流イベントの収益や集落で取れた物産販売により得た収益にて運営されている。

《議論の進め方》集落資源マップから活用できそうな資源の抽出か、その資源を活用した都市交流の方法（イベント、体験プログラム、物販販売等）について検討する。資源とその活用方法のマッチングが重要なポイント。特に都市住民側のニーズ把握が求められる事から補助進行役・記録に女性や学生を入れる。

《プロジェクトの方向性》板谷川の清流、市房山登山道、自然林、山菜等を活用したイベント開催や体験プログラム等の立案が考えられる。

グループ②「他出者を呼び戻すイベント開催」

《テーマ設定の背景》人口構成図(人口ピラミッド)から八重集落と 40 歳代と 50 歳代の他出が顕著であることがわかってきた。また、同居あるいは村内在住の後継者がいると回答した世帯が６世帯、村外に別居している世帯が１３世帯であった。他出家族との絆の強化、集落全体との関わりの維持・強化により、集落活動において他出者の役割を持たせ、減少する担い手確保へとつなげる。

《現況及び 10 年後の将来像》八重集落の 10 年後の人口はどのようになっているだろうか？他出者の多くはどこに住んでいるのだろうか？この人たちが将来八重集落に戻ってくる可能性は？他出者と集落とのつながりを今後維持していく方法は？

《先行事例の活用》出水市平岩集落では、集落内の道路清掃が困難になってきたため、他出者が手伝いはじめ、それが縁で紫峯会という他出者組織ができあがり、年に２回の他出者用のイベントを開催している。

《議論の進め方》人口構成図より、ターゲットとする世代、地域を決め、その人たちを呼び戻すための取組について話し合う。他出者のニーズ把握が求められる事からグループ内に一度集落を出た経験のある人、あるいは他出者に参加していただく。

《プロジェクトの方向性》集落資源として、集落活動上重要であった資源(共有財産、思い出深い場所・施設、伝統芸能、祭、行事等)の活用を考える。

グループ③「災害に負けない集落の絆強化」

《テーマ設定の背景》世帯アンケート結果より、集落において最も懸念される不安は災害に関する不安であった。平成 16 年の災害により、集落活動は停滞し、高齢化の進展による避難活動も困難になりつつあることから、個別に避難活動を実施する世帯も見受けられる。集落の消防団を中心とした災害時の助け合いは集落の絆を深くし、避難時の不安解消へとつながる。

《現況及び 10 年後の将来像》災害時の避難はどのように行われているのか？10 年後の集落内の高齢者単独世帯は？ 携帯不通地域という悪条件下において､集落としてのまとまりのある避難行動がとれるのだろうか？集落が一体となって避難行動を取る必要はあるのか？

《先行事例の活用》熊本県山都町で土砂災害により孤立化するおそれがある菅地区では、集落住民自らによる防災点検や町営コミュニティバスを活用した集団避難訓練を行っている。

《議論の進め方》集落の災害時の不安マップや平成 16 年の災害体験をもとに、高齢者単独世帯、各世帯の避難路などを想定し、防災、災害時、避難時の対応における問題・課題を明らかにし、集落全体でこの問題に取り組むための方法について話し合う。災害時の具体的な議論を行うため、各地区の高齢世帯の方や消防団員に議論に加わっていただく。

グループ④「八重集落発　鳥獣被害撲滅キャンペーン」

《テーマ設定の背景》世帯アンケート結果より、集落において懸念される不安の一つに鳥獣被害があった。近年特に鹿や猿の被害が多く、その対策が望まれる。また、狩猟を行う人が減っていることも被害増加につながっている。せっかく農作物を作ってもその収穫期に被害に遭うため、やる気を著しく損なう実態がある。

《現況及び 10 年後の将来像》鳥獣被害の実情と今後 10 年間の展開は？このまま何もしない場合はどのようになってしまうのか？耕作放棄地はどれくらい増えるのか？

《先行事例の活用》鳥獣被害対策としては、「防護柵設置」、「大型家畜放牧」、「作目変更」というような大きく３つの対策が講じられている。大型家畜放牧は山口県の事例、作目変更は滋賀県事例を取り上げるほか、アンケートにて提案のあった「コショウ」や「みつまた」の活用についても紹介する。

《議論の進め方》鳥獣被害の被害状況を確認し、集落全体でこの問題に取り組むための方法について話し合う。具体的な話し合いを進めるために農業従事者や狩猟を行っている人に議論に加わっていただく。

《プロジェクトの方向性》鳥獣被害対策実証実験が可能な田畑の抽出や作目変更として考えられる品目についての議論を行う。

（６）プログラム（概ね３時間程度）

第２回ワークショップの開催プログラムを以下に示す。

《第2回ワークショップの開催プログラム》

①開会挨拶

②ワークショップの目的(趣旨)の説明

③自己紹介(名前、出身地、所属とテーマに関する自分の経験等)

④元気づくりプロジェクトの企画

手順1　集落の現況及び予想される将来像の話し合い。

第1回ワークショップで出された不安・資源マップを確認し、テーマに関わる集落の現況及び将来像について話し合う。

手順2　解決すべき課題の整理と考えられる取組の抽出

集落の現況・将来から、考えられる集落の問題・課題について整理し、それを解決するための取組について話し合い、抽出。(課題とそれに対応する取組の組み合わせ)

手順3　プロジェクト名称「キャッチフレーズ」の考案

このテーマに合わせた「八重集落」にふさわしいプロジェクトとする場合のキャッチフレーズを考案する。(取組の絞り込み)

⑤実現に向けた検討項目

元気づくりプロジェクトの中で、特に重要である取組について深く掘り下げを行う。

手順1　取組に必要な「人」(人材・組織)。

手順2　活用できる集落内の「モノ」(活用可能な資源)。

手順3　継承できる「技」(技術・知識)。

手順4　宣伝の方法及びその他項目。

⑥プロジェクトシートの作成

プロジェクト名称、元気づくりプロジェクトの概要、実現に向けた検討項目を表に記入

⑦成果の発表

⑧閉会挨拶（次回日程連絡等）

（７）作業イメージ（使用した作業シート）

自己紹介カード(第2回WS)			
ふりがな			
氏名		居住歴	年
家族構成(同居者やご子息の居住場所)			
1．飼育している動物(家畜、ペット等なんでも)			
2．本日話し合うテーマとの関わり(八重での必要性、あなたの経験)			
3．あなたがこのテーマで話し合いたいこと			
4．テーマに関するあなたの特技や趣味			

自己紹介カード

元気づくりプロジェクト名：**「鬼火焚き」　先人たちも楽しんだ80年前の伝統復活！！！**

元気づくりプロジェクトの概要		実現に向けた検討項目				
現況・将来の問題・課題（資源活用・不安解消）	取組の内容	「人」（人材・組織）	「モノ」（活用できる資源）	「技」（継承できる技術）	「宣伝」（人集め、話し合い等）	その他
他出者の帰省が少ない	他出者の状況把握	集落各世帯	世帯アンケート		各世帯の他出実態をアンケートで把握	
祭の担い手がいない	他出者の集落活動への参加	宮崎県内に住んでいる他出者	他出家族の名簿作成	他出した世代の子供も参加する	集落在住世帯による電話連絡	
集落の伝統的文化の継承	伝統文化「鬼火焚き」の復活	伝統文化に詳しい〇〇さん	鉄砲	祭のいわれ、方法の継承	寄り合いを開催	〇〇祭(〇月開催)
			鬼のお面		回覧板	

プロジェクトシート

（８）作業結果

グループ①「集落資源を活かした都市交流」の話し合いの結果

鳥獣被害が昔から多い八重では、鳥獣被害を受けない作物を作って生計を立てていた先人の知恵を参考に、八重の特産物を作ることが考えられた。

使うものは、コンセプトの「MADE　IN　そこらへん」にも表れているように、八重に自生している数々の植物。その一つが「ミツマタ」。ミツマタは紙の原料にもなるうえ、早春にはきれいな黄色の花を咲かせ、八重での紙の生産を復活させるとともに、八重に新たな季節の彩りを加えることにもなるだろう。このほか、茶の実からとれる油を採取して商品化、カズラを使ったクリスマスリース作り、草木染めなどが考案された。

このように、「特別な工夫をすることなく、鳥獣被害の有無に左右されない植物を使うなど、自分たちの力でできることからやること」が八重の特産品づくりプロジェクトの方向性となった。

テーマ①　農産物栽培や山菜・魚等を活用した特産品づくり

プロジェクト名：

「MADE　IN そこらへん」～ミツマタ・キヨシの花だらけ村～

■現況・問題・課題

獣害が昔から多い八重では、獣害を受けない作物を作って生計を立てていた先人の知恵を参考に、八重の特産物を作ることが考えられる。

■取組の内容

《ミツマタの活用》
・早春にはきれいな黄色の花を咲かせるため八重に新たな季節の彩を加える
・ミツマタは紙の原料にもなるため、八重での紙の生産を復活させる

《茶の実の活用》
・茶の実からとれる油を採取して商品化

《カズラの活用》
・カズラを使ったクリスマスリース作り

《草木の活用》
・草木染めなど

八重に自生するミツマタ

グループ②「花見やフィッシングなどのイベント、祭おこし」の話し合いの結果

平成 16 年の台風災害から集落の寄り合いが減り、それまで行っていたファミリーフィッシング大会など、集落のみんなで楽しむことがなくなった。

今、集落では警察官だった光男さんが１０年前に植えた「光男桜」が立派に育っている。

参加者からは「集落の周辺に自生しているミツマタを栽培して、光男桜に彩りを与えたい」、「花見でバーベキューが出来たら」、「夜桜を楽しむためにライトアップをしたら夜も楽しめそう」などのアイデアが次々と出された。

さらに、「まずは自分たちが楽しむのが一番」、「外の人と一緒に楽しむのはその後でいいや」、「いつも炊きだしばかりしている婦人部も楽しめるように、外から屋台に来てもらえるともっと盛り上がるよね」などなど、欲張りなプランに発展していった。

ファミリーフィッシングの頃のようにみんなが、前日からのわくわくした雰囲気も楽しみ、イベントを盛り上げて、集落のにぎわいが続くことを願うばかりである。

テーマ② 花見やフィッシングなどのイベント、祭おこし

プロジェクト名：

「八重夜桜祭り」　～先ず地元→村内→村外～

■現況・問題・課題

平成16年の台風災害から集落の寄り合いが減り、それまで行っていたファミリーフィッシング大会など、集落のみんなで楽しむことがなくなった。
集落では警察官だった光男さんが植えた「光男さくら」が立派に育っている。

■取組の内容

《光男さくらの活用》
・ミツマタを栽培して、光男さくらに彩りを与えたい
・花見でバーベキューがしたい
・夜桜を楽しむためにライトアップ
《イベント広場の確保》
・駐車場、トイレ、イベント広場の確保
《取組の展開方法》
・先ず地元→村内→村外

光男さくら

グループ③「災害時の対策検討」の話し合いの結果

平成 16 年 9 月、台風 1８号が八重を襲い、土砂崩れ、避難所の床上浸水、避難道路の寸断など、甚大な被害をもたらした。八重の集会所には 20 名が避難したが、何人かの住民は避難せず自分の家にとどまっていた。

参加者からは「避難がバラバラだと連絡がとれないので不安」、「避難生活がどれくらい続くのか、最後は食料が尽きた」、「10 年後の消防団は 4 人」、「住民全員の避難場所リストって更新されていたっけ？」など、避難生活の苦労話や災害時の問題点が次々と出された。

あのような怖い思いは二度としたくない。そんな思いから「消防団の定年を 10 年延期」、「避難用食料備蓄をしよう」、「備蓄食糧が古くならないよう、定期的に食べるイベントを開催しよう」等と具体的な解決策が飛び出し、最後は避難を拒んでいた方も「俺も今度からみんなと避難する！！」と宣言するにいたり、本日の最も大きな成果へと結びついた。

最後に参加者から「消防団の定年は 79 歳でいいよ。俺、80 歳だから」との迷言も飛び出し、一同大いに盛り上がった。

テーマ③ 災害時の対策検討

プロジェクト名：「災害に負けない八重地区」
～みんな進んでニコニコ避難（清光さんといっしょ！）～

■現況・問題・課題

平成16年9月、台風18号が八重を襲い、土砂崩れ、避難所の床上浸水、避難道路の寸断など、甚大な被害をもたらした。八重の集会所には20名が避難。何人かの住民は避難せず自分の家にとどまる等一体的な行動がとれなかった。

■取組の内容

《災害時の体制強化》
- 避難者リストの作成・更新
- 消防団の定年延期

《避難長期化対策》
- 食料備蓄(3日）程度

《集団避難体制の確立》
- 避難時の声かけ
- 一体的な避難行動体制確立に向けた避難訓練の実施
  (消費期限が迫った食料を使った炊き出し訓練）

新たに整備された松之元集会所

グループ④「鳥獣被害の対策検討」の話し合いの結果

八重では猪、鹿、猿による鳥獣被害が多く、主に畑や造林地で起こっている。当初は、農作物が最も被害を受けていると予想されたが、それに反し参加者からは「農作物の被害は自分の家で消費する分だけ。最も深刻な被害は林業だ！」との意見が出された。

一般的に、鳥獣被害対策は「防護柵設置」、「作物変更」、「捕獲」の３種類だが、広大な山林を守るためには、防護柵や作物変更では対応できない。

その後「狩ること！」を中心として議論が白熱し、「猟友会に猟をしてもらう」、「猟友会の捕獲率は低い」、「鹿１頭の奨励金は五千円だ」等々の話題が飛び交った。また、自分たちでできるなら自分たちでやりたい！との思いから「我家で猟師を育てよう！」そして、鳥獣を撲滅して昔の森を取り戻そうというプロジェクトの方向性が固まった。

テーマ④ 鳥獣被害の対策検討

プロジェクト名：

「我が家の猟師さんで昔の森を取り戻そう」

～シカ・イノシシ・サルの撲滅～

■現況・問題・課題

八重では猪、鹿、猿による鳥獣被害が多く、主に畑や造林地で起こっている。
なかなか抜本的な解決策が無く、困っている。

■取組の内容

《猟師の育成》
・住民自らが狩猟免許、罠師の資格を取り、鳥獣を撲滅
《鳥獣資源の活用》
・捕獲した食肉を食べる→特産品化
《その他動物の活用》
・オオカミ、七面鳥、犬の活用

ユズ園での剥皮被害

鹿の被害が最も顕著

（９）第２回ワークショップの総括

①参加者が希望する集落元気づくりテーマ

参加者が話し合いたいことを話していただくため、参加者が議論したいと望むテーマに沿って参加者を４つのグループに分けた結果、話し合いへの参加意欲が向上した。

しかし、テーマへの希望者でグループ分けをしたが、年配者や男性からの意見が強く、若い人や女性などからの発言が少なくなってしまうグループも発生した。

今後は、グループ内での話し合いの進行をうまくコントロールしていくために、主催者側で人材の配置や進行策を工夫する必要がある。

②先行事例の紹介による情報の提供

話し合いの流れの中で必要に応じて先行事例を紹介し、話し合いの中で適宜先行事例を紹介することにより、新たなアイデアが生まれ、議論が活発化した。

その反面、先行事例を紹介しても参加者が既に事例と同様の策を実行しその限界を知っていたため、参加者が気乗りしないケースも見られた。

今後の課題として、先行事例の紹介にあたっては導入に至った経緯やその後の過程、工夫等についても紹介する必要がある。

③代表的な感想

- これなら出来るかなという事で、皆で取り組めそうだと思った。
- お年寄りのやる気に驚かされた。負けていられない！と思いました。
- 1 回 2 回と参加している内に、自分がこれならやれそうな事とか、こんな物を作ってみたいとか意欲が出て来ました。
- 1 人で考えるより、皆で意見を出し合うと、色々とつながって幅が広がるんだと思いました。普段会う地区の方達の新たな一面に気付かされる事があります。
- 各グループがそれぞれのテーマに沿って意見を出し合い、それを発表で聞く事によって、自分のグループ以外のプランが良く分かりました。

④住民が実行できそうな取組と意気込み

《八重桜祭り》

まずは、あらゆるものを使って、地元で楽しむ事から始められるという事もあり、子育てで忙しい日々の今でも出来そうな気がしました。

《災害に負けない八重地区》

これからも八重で生活する上で、災害に負けない心が必要です。災害にいつあってもいいように、防災についてなど、家内でも話し合いをしたいと思います。

《ミツマタ　キヨシの花だらけ村づくり》

ミツマタ栽培を本気で考えています。観光産業として。村民全体で考えて努力すれば、4～5 年で完成する。

《昔の森を取り戻そう》

どうしても被害を減らしたい。狩猟免許を取るぞ。

⑤鹿児島大学の山田誠先生の講評

「本日は非常に幅広い年代の方が集まり、楽しそうに議論をしているのが印象的でした。皆さんの一番良いところは「自分たちが楽しく」、そして「やりたいことがある」ということが第三者にも伝わってくることだと思います。

また、今回は別々のテーマについて議論しましたが、それぞれのテーマが関係していることが、話し合いを通じて感じられたかと思います。お互いが力を合わせると参加者が多くなります。一つのイベントで、２つ３つの目的を達成することが、少ない人数で高齢化が進む、あるいは子供を抱えていて忙しい状況では、非常に重要です。」

6. 第 3 回ワークショップの概要

第 2 回ワークショップ同様、小雨が降る中、八重活性化センターには、31 名の方が集まり、熱心な議論が行われた。

最後のワークショップであり、集落元気づくりに向けた取組の実施主体について、地区活動を行っている団体別(消防団、女性部、地区執行部他)に分かれて議論を行った。

自分たちが考えた 4 つのプロジェクトを何から始めるのか？既に実行され始めた取組や、なかなかやり手が見つからない取組まで、集落の未来を話し合う、参加者の発言一つ一つには力がこもっていた。

（1）開催日時・場所

日時：平成 21 年 3 月 9 日(月)　18:30～21:30

場所：宮崎県西米良村（八重集落）　八重活性化センター

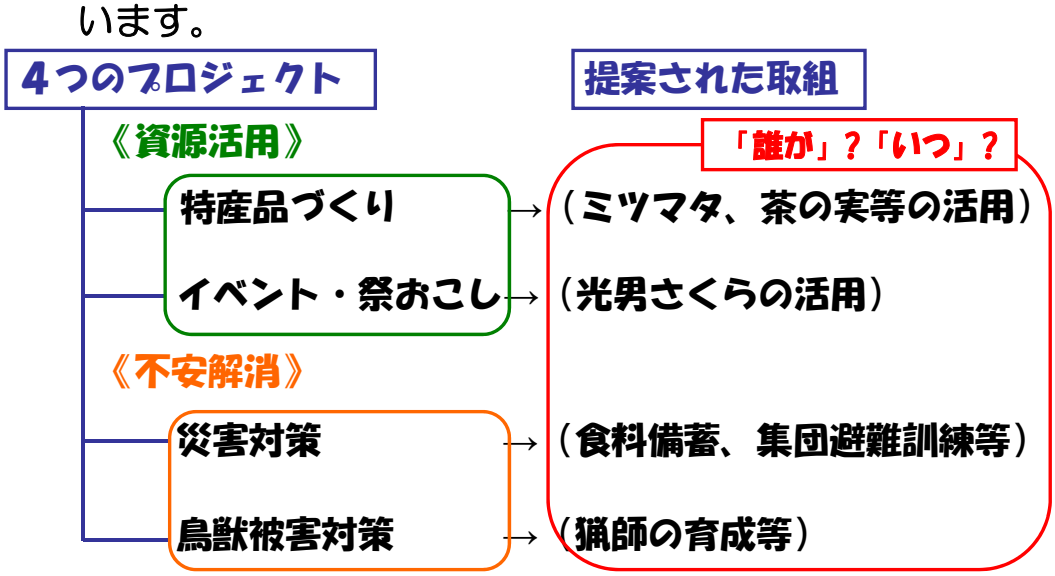
（2）開催テーマ及び参加者数

開催テーマ「集落の未来について語ろう」

参加者数：31 名（消防団、女性部、地区執行部の 3 グループに分かれ、四面会議システムによる全体議論）

（3）目的

第2回ワークショップで話し合われた4つのプロジェクトの実現に向け、「誰が」、「いつ」、「何を」行うのかを話し合い、特に今すぐ出来ることを決める。



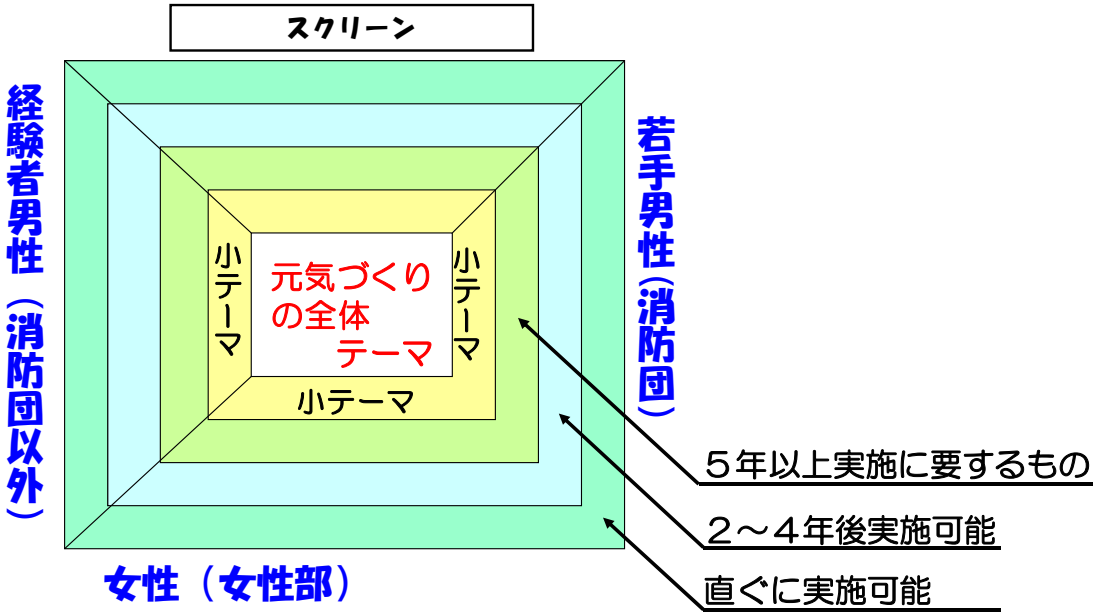
（４）実施方法

お互いの役割分担や相互連携について話し合い確認するため手法である、４面会議システムで実施した。本来は４面であるが、諸事情により今回は３面とした。

４面会議システムは、実現が困難な要因を課題として整理し、その課題について再度議論することにより、当事者・内部者だけでは見落としがちな取組の詰めを可能とし、取組の相互連携や複数プロジェクト間の連携を容易とする方法である。

３面へのグループ分けは下記による。

① 集落若手(消防団を中心とした男性若手グループ)
② 集落女性（婦人部を中心とした女性グループ）
③ 集落ベテラン(集落代表を含む人生経験豊富な男性グループ)



～ 各主体(面）の設定 ～

■グループ①⇒消防団に所属する集落の若手グループ
■グループ②⇒女性部に所属する集落の女性グループ
■グループ③⇒50才以上の集落男性グループ

４面会議システム

（５）プログラム（(概ね３時間程度）

第３回ワークショップの開催プログラムを以下に示す。

《第3回ワークショップの開催プログラム》

①開会挨拶

②ワークショップの趣旨説明

③自己紹介(名前、出身地、所属とテーマに関する自分の経験等)

④４面会議システムの説明

⑤４面会議によるアクションプランの作成

ステップ１　第２回ワークショップで出されたプロジェクトの各取組について全体進行役が参加者に投げかける。
各面の参加者は投げかけられた取組を、各主体(面)が、いつやれるか話し合う。

ステップ２　各取り組みの難易度に応じた取組時期を決める（直ぐにできること、2～3 年かかること、5 年以上かかること）

ステップ３　すぐに取りかかれない取組については、取り組むための課題について記述(赤の付箋紙)する。(人、モノ、技、宣伝、その他)

ステップ４　出された課題について、他の主体(面)が解決できないか進行役は投げかける。
（以下すべてのプロジェクトが終わるまで、ステップ１～４を繰り返す)

ステップ５　各面の小テーマと集落元気づくりの全体テーマ決め

ステップ６　取りまとめ(発表、ふりかえり)

⑥成果の発表

⑦閉会挨拶（次回日程連絡等）

（６）作業結果

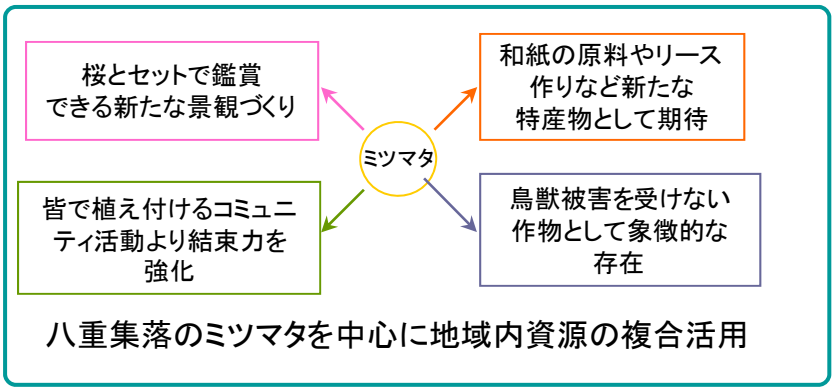
４面会議システムにより、暮らしの不安解消への様々なアイデアが話しあわれる中で、全てのテーマを全員で共有することが可能となり、八重集落のミツマタを中心として地域内資源の複合活用を図っていく合意が形成された。

具体的には、まずは、ミツマタの栽培と植え付けからスタートし、ミツマタと桜のセットによる新たな景観づくりや、ミツマタを和紙の原料やリース作りなど新たな特産物づくりに役立て、また、コミュニティ活動としてミツマタを皆で植え付け集落の結束力を強化すると共に、鳥獣被害を受けない作物として集落の象徴的な存在とすることである。

上記のような話し合いを元に、八重集落の集落元気づくりテーマが、次のように選出された。

＜八重集落の集落元気づくりテーマ＞

「ミんなで　ツくって　マもろう　タから　～とりあえずミツマタ～」



（７）第３回ワークショップの総括

①４面会議を用いた取組への合意形成

「誰が」「いつ」どの取組を行うのかの話し合いを、集落内の既存の実行単位での議論としたことで、年配者の知恵・経験に圧倒されながらも、相互への期待も語られ、参加者のやる気を引き出すことにつながった。

課題としては、自分たちではできない課題にぶつかった時、人的支援や助成制度などの支援策として助言できるアイデア（情報）の充実が必要である。

②難易度による実行期間の分類

先ずどこから手がけるのか、できるところからやろう、という気運が高まり、結果として、とにかく「集落の行事にしよう」という実行性の高い提案が出された。

しかし、“金にならなきゃ、やっている暇がない”というような意見もあり、資源活用への知恵や情報、助っ人が必要である

③集落の全体目標の共有化

暮らしの不安解消への様々なアイデアが話し合われる中で、全てのテーマを全員で共有し、集落活動の参加者の目標を“ミツマタ”に結実させることができた。

今後は、実際にやろうとすると難しい課題が出てくるが、それを解決するためのツール（ネット利用や効果的な事例、制度紹介）の提供と、自分たちによる解決力を高めること、高められるという自信を持てるように導くことが必要である。

④ワークショップに参加しての代表的な感想

- 今の私達に出来るのだろうか？という事を考えさせられました。何をするにも限界が有ったり、でも出来るゾ！というところまでの発見も有り、この三回の収穫は大きいです。
- 若者から高齢の方までの会の中で、全ての人が内容を理解し、一つのことを全員で考える方法が素晴らしいと感じました。
- 意外と難しい問題が山積みなのだなと思った。
- 前二回は、思いついた事や地区の方々の話を聞いたりと面白い発見が多かったのですが、今回の現実に実行となるとなかなか難しい事が多いな、と思いました。現実はなかなかです。
- 地域の人たちの意識、気付き、見方などに少しでも変化が見られたようで良かった。これが全て良かったってことにはならないかもしれないが、きっかけづくり的にはとても良かったと思う。又、総会前のこの時期というのが、より良かったと思う。

⑤宮崎大学の吉武先生の講評

「本日は皆さんが積極的に話をされ、難しい問題もありましたが「とりあえずミツマタ」をキーワードにして、活動しようと決まったことは大変良かったと思います。

今から活動を行うのは皆さんであり、誰かがチェックするからやるというモノではありません。

もし、声をかけていただければ応援にきて、一緒に楽しもうというスタッフの方もたくさんおられると思います。

今後も、皆さんが色々な人と関わり、みんなが楽しめ、それぞれが何か役割を持っていることを、ミツマタを機にして出発できれば、活動に広がりが出てくると思いますので皆さん協力して頑張って下さい。」

プロジェクトを実行する際は我々も呼んでいただけることを楽しみにしております。」

7. ワークショップの総括

ワークショップ開催を通じて、今回の集落元気づくりは、参加の場の創出に始まり、元気づくりの実現に至るまで、５段階（第０段階～第４段階）で整理されることが明らかになった。下記にそれぞれの段階の実施内容と各段階において明らかになった課題をまとめた

（１）第０段階　参加の場の創出（ワークショップの事前準備）

ワークショップ開催の前段階として、参加の場の創出が必要であり、次の項目を実施した。

① 住民への参加の呼びかけ

② 区長への挨拶と予備調査

③ 全世帯アンケート調査の実施

その結果、定量的な統計データのみでは得られない集落実態の把握が不可欠であることが明らかになった。

（２）第１段階　気づきの誘発（第１回ワークショップ）

ワークショップ参加者が、気づきの誘発を行えるように、次の項目を実施した。

① グループ分け

② 現在と将来の人口構成は？

③ 集落の他出者の実態

④ 集落の不安と資源

その結果、子どもの進学による教育費負担増や、医療や公共交通の不足への“対応や支援”を今後検討していく必要があることが判明した。

（３）第２段階　集落元気づくりの方向性（第２回ワークショップ）

ワークショップ参加者が、集落元気づくりの方向性を検討するために、次の項目を実施した。

① 参加者が希望する集落元気づくりテーマ

② 先行事例の紹介による情報提供

③ プロジェクト立案

その結果、年配者や男性からの意見が強く、若い人や女性などからの発言が少なくなってしまうことへの配慮が必要であることと、先行事例の紹介にあたっては導入の経緯や工夫等についても紹介する必要があることが明らかになった。

（４）第３段階　自ら実行する意志　（第３回ワークショップ）

ワークショップ参加者が、自ら実行する意志を固めるために、次の項目を実施した。

① ４面会議を用いた取組への合意形成

② ここから始めます（取り組みの具体化）

③ 集落の全体目標の共有化

その結果、自分たちではできない課題にぶつかった時、人的支援や助成制度などのアイデア（情報）の充実が必要であることと、資源活用への知恵や情報助っ人が必要であること、さらに自分たちによる解決力を高めるツール（ネット利用や効果的な事例、制度紹介）が必要であることが判明した。

（５）第４段階　元気づくりの実施　（本調査においては未実施）

ワークショップ参加者が、自ら決定した元気づくりを実施する。そのためには、可能な限りの支援を各方面から行う必要がある。